

先生との思い出

大 迫 美 香

4月頃だったでしょうか。思いがけず頂いた先生からのお電話で退官されたことを知りました。本当に突然の事で驚いてしまいました。

今回はこの紙面をお借りして、先生へのお礼の意味を込めて、先生との思い出を綴りたいと思います。

私が先生と初めてお会いしたのは5年程前大学1回生の「英語学概論」の講義でした。私の名前の珍しさも手伝ってか早々に憶えて頂いた様で頻繁に解答の御指名を受けました。毎回緊張の連続で、テキストと辞書を片手の90分でしたが、「先生に認められている」という気がして大変嬉しかったです。しかし今になって思うのですが、先生は私の事を「打てば響く」学生だと思ってらしたのかもしれませんが私は「打たれて出す音を必死に探す」学生だったんですよ。誤解されていてはいけませんのであえてここで言うておきます。

3回生では「英語史」の講義を受けさせて頂きました。今迄受験英語としてしか見ていなかった英語を、学問として、生きた語としての英語として見直すことが出来た様に思います。英語の成立した背景や言語の変遷を学びながら同時に言葉のおもしろさを知りました。余談になりますが卒業後期限付で教壇に立つ機会を得た折、この「英語史」で学んだ語尾変化の歴史が大変役立ちました。生徒のささやかな疑問に答える良い材料になったんですよ。

そして卒論ゼミでは先生の御専門の領域の一部をかじる形になりました。読むだけで気が遠くなりそうな専門書や資料を差し出された時には内心「どうしよう」と焦りましたが、先生の懇切丁寧な御指導のもと、なんとか一応論文らしい形にすることができました。

講義やゼミ以外でも大変御面倒をお掛けしました。教育実習の際、実習校ま

で御足労頂きました。卒業後も折々に頂くお葉書では私の進路のことを大変気遣って下さり、いつも恐縮しております。そして大勢いる学生の中の一握にすぎない私にまで心を傾けていただけることにとても感激し、感謝しています。

岡本先生のことは講義を通しての姿しか計り知えません。ましてや諸先輩方の様に研究者としての先生についてはほとんどわかりません。しかし長い間教壇に立ち続けておられる教職の先輩として、そして人生の先輩として、とても素晴らしい方だと思います。

私のわずかな経験からも、人に何かを教える、ということの難しさや、その為に費やす時間の多さと大変さは身にしみてわかります。人に一を教えるには自分は十も百もそのことを知り尽くさないとダメだ、ということになるでしょう。私はたった一年でも根を上げていたのに、先生は教員として、研究者として何十年もの長い時間を過ごされている。とても一言で言い現わせない程ですが、あえて言うなら「すごい」というしかありません。

佛教大学を退官されたとはいえ、今後も私の後輩にあたる学生を指導されるとお聞きしています。私の様な未熟な教え子もいます。今後、後にくる者の為にも、そして私の為にも素晴らしい“師”であり続けて下さい。

研究者として益々その巾を広げて、精力的に御活躍していただきたいと思います。私も先生に学んだことを忘れず、それをバネにして、一日も早く先生に良い御報告が出来る様に努力したいと思います。

折をみて新しくなった研究室にお邪魔したいと考えています。その時には、あの懐かしい優しい笑顔にお会いできることを楽しみにしています。よろしくお願いします。

最後になりましたが、お体に十分お気をつけて、御活躍されます様心よりお祈り申し上げます。